

屋根葺替工事 Vol.5

・こけら板の間に銅板を挟む！？ 2018. 6. 18

飛雲閣の屋根は「こけら葺」という工法で、3mm程度に薄く剥いだサワラの板「こけら板」を3cm程ずらして重ね、葺いていきます。今回の修理では、こけら板の腐朽を抑え耐用年数をより長くする目的で、薄い「銅板」をこけら板の間に挟み、葺き込んでいます。

これは、カビや藻類による腐食から木材を守る「銅の防腐効果」を利用したもの。雨水に溶け出した銅イオンが、こけら板表面に付着して屋根を保護することで、こけら葺屋根の20～30年という耐用年数がより長くなることを期待しています。文化財の修復では、伝統的工法を受け継ぎつつ、近年の調査研究で裏付けされた技術を取り入れ、よりよい文化財保護の方法を模索しています。



▲ 「銅板」をこけら板の間に葺き込む様子



▲ 葺き込まれた銅板



▲ 2層目現況 葺き込んだ銅板はこけら板に隠れて見えなくなる